

記者発表（配付資料）				
月/日 曜日	担当課（室） 係名	電 話	発表者名 （担当班長）	その他 配付先
9月1日 （木）	義務教育課 初等・中学校教育班	内線5830 ダイヤル362-3772	課長 西田 健次郎 （村田 かおり）	なし

グリーンスクール表彰校の決定及び環境教育実践発表大会の開催について

I グリーンスクール表彰校及び奨励賞表彰校の決定について

1 目的

環境教育の一層の振興を図るため、環境保全活動など実践的環境教育を積極的に推進する活動において特色ある優れた実践を行っている学校をグリーンスクールとして表彰することにより、環境への意識の高揚を図ることを目的とする。

2 内容

(1) 平成28年度グリーンスクール表彰校 10校（内容は別添1のとおり）

〔小学校 7校〕 神戸市立横尾小学校 伊丹市立瑞穂小学校
三田市立母子小学校 豊岡市立中筋小学校
朝来市立竹田小学校 洲本市立加茂小学校
淡路市立釜口小学校

〔中学校 1校〕 猪名川町立六瀬中学校

〔中・高一貫校 1校〕 学校法人須磨学園 須磨学園中学校・高等学校

〔高等学校 1校〕 県立香住高等学校

(2) 平成28年度グリーンスクール奨励賞表彰校 3校（内容は別添2のとおり）

〔小学校 2校〕 尼崎市立武庫小学校 赤穂市立原小学校

〔特別支援学校 1校〕 小野市立小野特別支援学校

II 環境教育実践発表大会の開催について

1 趣旨

人と環境が適正な調和を保つ環境適合型社会づくりを目指し、環境創造活動に取り組み、地球温暖化防止や廃棄物問題などの地球環境の保全や地域の環境づくりについて、地域社会として展開すべき行動を推進することが求められている。

学校教育においても、21世紀を生きる子どもたちに、環境問題等について正しい理解を深め、責任をもって環境を守るための行動がとれるような態度を育成するなど、環境教育の充実を図ることが重要である。

そこで、先進校の実践事例発表等を通じて、自然、風土、文化などの周辺環境や地域資源を活かし、調和する暮らしや生命を大切に思う心をはぐくむことの重要性を再認識するとともに、学校における環境教育の振興に資する。

また、特色ある優れた実践を行っている学校を表彰する平成28年度グリーンスクール表彰式をあわせて実施する。

2 日 時 平成28年10月5日(水) 13:00~16:00

3 会 場 兵庫県公館大会議室

4 対 象 教職員、教育委員会指導主事、ひょうごグリーンサポーター等

5 日 程

(1) グリーンスクール表彰式 (13:00~13:40)

知事あいさつ

グリーンスクール表彰(知事)

グリーンスクール奨励賞(教育長)

審査講評

(2) 実践事例発表(平成27年度グリーンスクール受賞校から) (13:40~14:40)

丹波市立遠阪小学校

加古川市立加古川中学校

県立出石特別支援学校

(3) 講 演 (14:55~16:00)

講師 「ESDを踏まえた環境教育について」(仮)

講師 奈良教育大学 准教授 中澤 静男

グリーンスクール表彰校について

(1) 神戸市立横尾（よこお）小学校

「未来につなごう！ ふるさと横尾の自然と環境」

平成15年、「子供たちを地域で育てて自然の中で心を育もう」と、学校・家庭・地域の協力により、空き地に田んぼ・畑・ビオトープを備えたネイチャーランドが完成した。

主に生活科や総合的な学習の時間において、ネイチャーランドを中心に、地域の自然を知り、保全し、未来へ伝えていこうとする体験活動を行っている。また、地域の方と一緒に、稲作や野菜づくりに挑戦したり、植物や果樹の季節による変化を記録したり、自分の木を決めて1年間定点観測をしたりするなど、様々な角度から自然と環境の相互作用に目を向けさせている。

活動を通して、横尾の里山風景の保持・発展のみならず、様々な年代の方との触れ合いから、礼儀や作法、伝統的な風習など、より多くのことを学ぶことができている。

(2) 伊丹市立瑞穂（みずほ）小学校

「学校・家庭・地域の連携 自然あふれるビオトープ」

児童が自然と触れ合える場所の確保及び環境教育を推進するために、学校、PTA、地域ボランティア団体が密に連携し、10年間継続してビオトープの整備を行っている。全校集会でビオトープの様子の紹介がある度、休み時間や放課後にはビオトープ周辺に児童が集まり、環境教育に対する興味関心を深めている。

ビオトープには、動植物が多く生息しており、それらは各教科等において生きた教材として活用している。例えば、チョウトンボやイトトンボは、理科の観察や図工の写生で活用したり、絶滅危惧種のデンジソウやフジバカマは、自然や生命を大切にしようとする心を育てる道徳の授業でも活用したりしている。

このような実践を通して、児童は実体験に基づいた効果的な学習を行うとともに、環境保全への意識を高めている。

(3) 三田市立母子（もうし）小学校

「ふるさと『母子』の里山で育まれる子どもたち」

地域を愛し、「ふるさと母子」の里山を大切にする児童の育成を目指し、寒冷地の特性を生かした「そば」や「お茶」等の生産活動を始めて28年が経過した。生活科や総合的な学習の時間に、畑の世話を通じて自然の恵みを感じる学習に取り組んでいる。

平成13年から三田市立有馬富士自然学習センターの指導のもと、四季折々に学校近辺の植物観察・小魚や昆虫の採取観察を行っている。フィールドワークの中で、児童は積極的に昆虫等と触れ合ったり、山野草を観察したりしている。

地域の方々と交流し、連携を図りながら行う作物栽培等を通して、自然の恵みや母子地区で暮らす知恵と工夫について直に学び、母子の良さを再認識する中で、郷土愛の育成を図っている。

(4) 豊岡市立中筋（なかすじ）小学校

「つなげようふるさと中筋の宝を」

河川に湿地が整備された平成23年度から、地域と共に自然と共生しながら、よりよい未来を創っていきこうと、豊かな自然や歴史を取り上げた「ふるさと学習」をテーマに全学年で系統性のあるカリキュラムを作成し、地域人材を活用しながら学習を進めている。

低学年では野菜栽培等の身近な自然にふれる活動を行い、中学年では県立コウノトリの郷公園や新川疎水見学等の環境に配慮した取組を学んでいる。5年生では湿地の生き物調査から数や種類について経年比較を行い、6年生では総まとめとして、「中筋の未来を考える」というテーマで、自然と共生するためにできることについて学習を深めている。

児童は、地域の自然にふれ、考え、行動を起こすことで、地域を愛し、人と人、人と自然の温かなつながりを学んでいる。

(5) 朝来市立竹田（たけだ）小学校

「体験にもとづいたふるさと愛を育む故郷立雲峡の山桜の再生」

校区には、通称「但馬吉野」として4月の但馬の風物詩である立雲峡がある。その景観保護活動を行う「立雲峡の山桜を守る会」と共に、4年生で実施する「2分の1成人式」の記念として、山桜の種から育てた苗木の植樹を行っている。

今年で6年目を迎えるこの活動は、学校と地域が交流するよい機会となっており、取組内容について地域の方々と共通理解を図ることで、山桜の保存活動をより豊かなものになっている。

また、立雲峡の自然について「体感する」「調べる」「かかわる」という学習活動を通して、児童の山桜を大切に思う気持ちを育んでいる。

山桜を育て、ふるさとの名所を守ることを通して、ふるさと愛を育むとともに、ふるさとの自然環境を見直すことで、ふるさとを誇りに思う心を醸成している。

(6) 洲本市立加茂（かも）小学校

「里山を守ろう。里山と暮らそう。」

平成20年から8年間、淡路島の将来を見据えて地域の良さを学び、地域に貢献できる人づくりをめざし、PTAと地域と連携して昔ながらの伝統的な生活様式等について学んでいる。

玉葱の収穫や学校園での野菜作りでは、収穫した食材を加工し、食の安全や環境問題について学習している。また、菜の花の収穫やバイオ燃料の工場見学では、環境を守るために地域資源を使った循環型のまちづくりについて学習を深めている。

児童は、里山の動植物調査等から多様な生態系について学習を深め、身近な環境を守ろうとする態度を養うとともに、地域の協力を得て行う田植え定規を使った田植え等から、生産者の苦勞を知り、感謝の心を育み、自然に対する畏敬の念を養っている。

(7) 淡路市立釜口（かまぐち）小学校

「ふるさと釜口の自然を守ろう！」

校内では、様々な環境に関わる学習を整理し、各教科や総合的な学習の時間を横断した形で環境教育に取り組んでいる。3年生の環境体験学習では、豊かな自然環境と心豊かな地域人材を活用し、農業では地場産業でもある花卉栽培、漁業では稚魚放流を柱として位置付けている。

カーネーションの栽培体験では、苗が成長して収穫できるようになるまでに農家の方々がどんな苦労や工夫をしているのかを考え、全校生が保護者や地域の方々と連携して取り組んだヒラメの稚魚放流や地引き網体験では、自然の中で生命の営みを感じながら自然が多くの人々の手によって守られ、受け継がれていることを学んでいる。

地域の方々の積極的な協力のもと、学校を出て地域の自然の中で体験する活動を積極的に取り入れることで、児童の身近な自然への興味・関心を高めている。

(8) 猪名川町立六瀬（むつせ）中学校

「ふるさとの自然や文化から学び、地域と共にふるさとづくりを行う」

学ぶことの意味や楽しさを実感できるよう、『主体的に夢を描く力の育成』を学校教育目標に掲げ、その重点方策としてESDを据え、生徒達が見過ごしてきた里山の豊富な自然環境や古き歴史文化を活かした学習活動に取り組んでいる。

自然体験学習については、1年生では稲作を中心に里地・里山から学ぶ体験学習、2年生では猪名川の水生生物調査、3年生では猪名川での食物連鎖について藻類や水生生物について詳しい調査を行っている。また、「ふるさとクラブ」では、漁業協同組合の援助のもと、猪名川への天然アユ遡上をめざして放流及び捕獲調査を行っている。

猪名川の自然や歴史文化に直接ふれ、体験することで、ふるさとの素晴らしさを学ぶとともに、循環型社会の仕組みを知ること、自然や文化を守り、再生する手立てを地域の方々と共に考えている。

(9) 学校法人須磨学園 須磨学園（すまがくえん）中学校・高等学校

「ISO14001環境マネジメントシステムの実践と継続的改善」

阪神淡路大震災後、環境教育を経営計画における重点目標の一つと定め、環境問題に関する国際規格であるISO14001環境マネジメントシステムを取得した。環境マネジメントシステムの継続に向けては、生徒会組織に環境維持委員会を設置し、環境活動のリーダーを育成するとともに、全校生への周知を図っている。毎年、定期維持審査あるいは更新審査を受け、内部監査も実施するなどして、国際的な基準の規格遵守に努めている。

須磨区妙法寺川及び公園の清掃活動や、警察との連携による須磨海水浴場の清掃活動では、ゴミの分別等を行う中で、環境問題についての意識を深めている。

教育活動全体を通じて、人と自然との関わりを考えることにより、環境保全を積極的に進める人材を育成するとともに、環境問題の法規、規則、条例、協定、また国際的環境指導原則の要求事項を遵守し、自主基準を制定して環境保全に努めている。

(10) 県立香住（かすみ）高等学校

「但馬の美しく豊かな自然を継承する」

県内で唯一の水産学科を有する県立高校であり、大型実習船「但州丸」での長期漁業実習、アユ・ヒラメの養殖と海産物の加工実習等を実施している。また、地域に学び、地域に貢献する学校づくりに取り組み、学校での学習を地域社会の環境保全に役立てている。

矢田川では、「清流の郷づくり大作戦」を展開するとともに、アユの飼育や放流を通して、水温や塩分濃度の差がアユの生存率に大きく影響することがわかり、継続的に水質調査を行っている。山陰海岸ジオパークにある多様な褐藻類から構成されるガラモ場と、流れ藻につく魚類相を季節ごとに調査し、ガラモ場保全の方策を研究している。

また、ラムサール条約に登録された円山川下流域・周辺水田では、湿地の魚類相調査を行い、豊岡市民に対して、湿地保全に向けて継続的な調査の重要性について提言した。

様々な環境調査データについては、米国のデータ処理センターに報告するなど、地球規模で環境保全に取り組んでいる。

グリーンスクール奨励賞表彰校について

(1) 尼崎市立武庫（むこ）小学校

「育てよう環境を守る豊かな心 地域の人々と共に」

平成24年度から地域にある「西武庫公園ホテルの会」と連携し、ゲンジボタルの学習や、ゲンジボタルの幼虫の餌であるカワニナの飼育活動を行っている。

3年生の環境体験学習では、学校近くの農業用水路や武庫川上流の生き物調査及び状況調査に加え、育てたゲンジボタルの幼虫の放流活動等を実施している。

学校、家庭、地域住民のそれぞれが、学校横のコミュニティーロードにホテルが飛び交うことを目標として活動する中で、ホテルの美しさという共通の価値観を持ち、自分たちにできることを考え、行動することの大切さを学んでいる。

(2) 赤穂市立原（はら）小学校

「見つめよう、地域の米作り。考えよう、これからの農業。」

地域に対する理解と愛着を深め、誇りを持てる児童を育成しようと、古くから米作りが行われた地域の特色を生かし、平成2年から27年間にわたり、学校農園での古代米の栽培に取り組んでいる。

田植えと収穫祭は、主に総合的な学習の時間に、全校生、保護者、地域ボランティアの方々や幼稚園児も参加し、地域の方の指導を受けながら行っている。また、3年生では大豆作りを行い、収穫した大豆と地元赤穂のにがりを使って豆腐作りにも挑戦している。

自分たちが食べるものを自分たちの手で栽培することの大切さと、その命を育む自然環境を守っていくことの大切さに気づかせ、生き方を考えるキャリア教育にもつなげている。

(3) 小野市立小野（おの）特別支援学校

「里山の環境保全と紹介活動ーコケ鉢づくりを通してー」

学校は、青野ヶ原台地にあり、一帯は、里山の素晴らしい環境が保全されている。

自然と触れ合うことで子どもの感性を育むとともに、自然保全について地域に発信していこうと、平成26年から「コケ鉢づくり」を全校生で実践している。学校周辺のコケと山野草を合わせた「ミニ盆栽」を地域の方々に配布することで、地域をあげて里山の自然を守っていこうという意識が高まってきている。

学校周辺の自然環境を守り、里山の素晴らしさを多くの人々に伝えることで、地域と共に積極的に栽培や環境保全に取り組む子どもを育てている。

